

# 熊東園だより

令和6年9月1日発行  
社会福祉法人 耕心会  
障がい者支援施設 熊東園  
〒861-2236  
熊本県上益城郡益城町広崎 786-1  
TEL/FAX (096)286-2762

URL:<https://yutouen.com>



## 施設長より

ごあいさつ

施設長 永田敏夫

障害者支援施設「熊東園」は創立36年目を迎える運びとなりました。これも一重に今日まで暖かいご支援、ご鞭撻を賜りました関係各位、地域の皆様、ご利用者及びご家族の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

昨年5月より、コロナウイルスが、インフルエンザと同じ5類に引き下げられております。昨年は、施設内で利用者と職員だけでミニ秋月祭などをしたり、感染症対策も行いながら出来る範囲でいろんなイベントを少しずつ実施してまいりました。今後も出来る限りの感染症対策を行いながら、コロナ前の日常を少しずつでも取り戻していきたいと思っております。

これからも利用者の幸せを第一に考え、また地域の福祉拠点となれるように、職員一同頑張っておりますのでこれからもご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 事務所より

つなぐ

事務長 永田

熊東園の玄関を入ると左手に事務所があります。

スタッフは施設長をはじめ3名、来園される方と一番にお会いするのは私たち事務所のスタッフです。通所のご利用者さま、面会にいらっしゃるご家族の方々、取引先の業者様、施設の見学に来園される支援学校の先生や生徒さん、実習に来られる大学生、熊東園オリジナル石けんを買いに来られる地域の皆様・・・たくさんの出会いがあります。

また、電話を最初にお受けするのも私たちです。(夜間や週末は職員の先生方をお願いしています。)ご来園の方と同様電話もたくさんの方とお話する機会があります。

常に心掛けていることは、ご来園される方にも、電話の第一声も「ようこそいらっしゃいました。」「お電話ありがとうございます。」の気持ちです。最初に気持ちのよいお声かけをすることで、面会の時間も豊かに、また仕事の本題のお話もより良く成すと思っています。

これからも皆様と熊東園を繋ぐ一助になれるよう日々努めてまいります。



## 支援課より

熊東園の生活について

サビ管 富山

今年は、異常気象が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症もあり、行動制限を余儀なくされましたが、5類に移行したこともあり、さまざまことが通常に戻りつつあります。熊東園でも、ご利用者の方々に我慢して頂いたこともあったと思います。ご協力ありがとうございました。

少しずつ行動制限もなくなった今だからこそ、意思決定支援が大切になってきます。ご利用者がやりたいこと、チャレンジしたいこと、出かけたいたいところ等の意見に耳を傾け、ご利用者、職員共々色々なことにチャレンジしていきたいと思っています。

今年は、ドライブや買い物、お祭り等に参加しました。親切でお連れしても、本当は部屋でゆっくりしておきたかったと思われる人もいます。しっかり意思を尊重し、より良い生活を送ることができるようにお手伝いできたらと思います。

ご利用者の皆様が笑顔あふれる生活を送ることができるように全面的にサポートしていきます。これからもご協力よろしくお願い致します。



## 熊愛ホームから

熊愛ホームから

サビ管 都甲

グループホーム（熊愛ホーム）からの最新ニュースのお届けです。

今年度から新しい仲間が利用されました。昨年からは GH 利用体験を行い、ご本人とご家族にも納得頂けるよう、何度も話し合いと見学を行い、利用開始日を迎えることが出来ました。昨年、熊愛ホームも創立 20 周年を迎え、畳の貼り換えを行い、い草の清々しい香りの部屋で悠々自適に生活されています。まだまだ地域での生活を送る上で学ばなければならないことが沢山ありますが、彼は少しずつ日々の暮らしの中、地域交流の中で成長していくことでしょう。

熊愛ホームには、このように生活されている方もいます。

長年利用されているある利用者さんは最近、ペットボトルコーヒーがマイブームだそうでお買い得価格を見極めて購入されています。お買い得のお値段で仕入れたものを周りに振舞うことが彼の楽しみの一つともなっているようです。もしかしたらお礼の品待ちかも…(笑)。まさに損して得取れですね。

このように熊愛ホームでは、日々の生活を楽しみながら生活しています。今なら定員に 1 名空きがあります。興味がある方は、是非お話しだけでもお聞かせください。熊愛ホーム一同お待ちしております。

## 短期入所

短期入所からのお知らせです

主任 富田

様々な支援サービスのなかで、短期入所とはなんぞや？と思われる方にご説明します。

普段は在宅で過ごされている方、ご家族と一緒に過ごされている方が何らかの理由によって介護や支援を受けることができなくなった時に、短期的に熊東園で入浴や食事、排泄等の日常生活の支援や、作業や活動の日中活動等の様々な支援を受けることができるサービスとなっています。

短期入所の別名として「ショートステイ」がありますが、こちらの方が皆さん親しみがあると思われま

す。熊東園ショートステイの 1 日の定員は 2 名までとなっています。現在のご利用状況としては、男女ともにご利用頂いていますが、まだまだご利用可能な日がたくさんあります！たくさんご利用して欲しいです！

熊本地震の被害にあった熊東園ですが、新しく改築、増築をしてご利用者一人に一部屋あり、ゆっくりと過ごして頂くことができます。他のご利用者の方も、笑顔が素敵な方ばかりで、楽しいこと間違いなし！

ぜひ、気になる方や、興味がある方など、熊東園までご相談ください。ご利用者の意向、個人の尊厳を守り、自立した日常生活を地域社会で営む事ができるように、サービスについて説明を行います。施設見学も随時受け付けております。熊東園にちょっと泊ってみませんか？

## 医務

健康維持・免疫力強化

医務課 布田

近年、重症化する感染症の流行が話題になりました。代表的なのが、コロナウイルスですが、令和 5 年に季節性インフルエンザと同類の 5 類に分類され、1 年が経過しました。5 類になったとはいえ、熊東園では、引き続き手洗い・換気などを行い、感染予防に努めています。コロナ禍で、免疫力の強化・メンタルヘルスの重要性も注目されました。免疫力の強化は、体の防御機能を高め、感染症や病気に対する抵抗力を向上するために重要です。そのためには①バランスの取れた栄養摂取。②適度な運動ウォーキング等週に 150 分程度の運動が推奨されています。③十分な睡眠：良質な睡眠は免疫システムの回復に重要です。熊東園では、各部署連携して、利用者様の免疫力強化に努めています。感染対策を行いながら、今まで自粛していた外出・買い物再開など利用者様が、楽しみながら、規則正しく生活が送れることが大切です。ちょっとした体調・言動の変化に気づき素早い対応ができるよう、各部署と協力し、利用者様の健康維持に努めていきたいと思っています

## 行事（全般）

### 行事

副主任 西村 好伸

熊東園では日頃から様々な季節や時期に応じた行事を行っています。園の中での生活だとなかなか季節の変化を感じにくいと思われれます。そこで、職員一同色々な工夫を凝らして利用者の方にも季節を感じさらに楽しんでいただけるようにと、その時期に合わせた様々な行事を開催しています。時には一緒に行事の準備を行ったり、時には只々楽しんでいただいたり、利用者の楽しい体験になるように活動しています。

## 厨房

### 「給食課より」

栄養士 大橋美穂

熊東園には、様々な年代の方が生活されています。それぞれの嗜好があり、食事状況もそれぞれです。料理を提供し、そのままの形状では食べるのが難しい方には刻み食を提供しています。

『刻み食』と言ってわかれる方はいらっしゃるでしょうか。読んで字のごとく、刻んである食事です。人は、口に食べ物が入ると噛んで飲み込みます。その、噛むという工程を事前に機材を使って行っている食事のことです。

現在該当される方が12名おられますが、今後食べ方や加齢、また口内環境の低下とともに増えていくだろうと予想されます。

食事は、おいしいも楽しいも口から食べることによって感じられるものだと思います。ご利用者の健康と、人生の楽しみの一つである食。これらを守っていける食事作りに、給食課職員一同今後も励んでいきたいと思っています。

## 生活介護/施設入所

### 生活介護/施設入所

主任 角田 圭介

登園の日中活動（生活介護）では個々の要望をはじめ能力や年齢を考慮してご本人の希望により近付けた活動で大切な時間を過ごして頂いています。因みに1班から3班までありまして…

1班ではフルーツキャップ作業（5枚重ね・小袋詰め）を中心にビーズ作業、その日の気分で“何でもいいよ”的作業を行い、2班では機能維持や趣味を取り入れたご高齢者や重度のご利用者が主役の作業です。また、3班では農作業や鶏の世話をはじめとする屋外を中心とした活動的な作業班で構成されています。

次に平日の朝夕や休日等の施設入所の時間帯では食事やおやつの時間以外は、ほぼ自由時間となっておりテレビを観たり、ラジオを聴いたり、雑誌を読んだり、文字を書いたり、塗り絵を楽しんだり、健康の為に歩いたり、お友達と遊んだり、外を眺めてポッーとしたり、滝に打たれて精神統一したり（笑）やることは無限大です。

その中で自分に合う活動（楽しみ）を見つけていただき施設生活での生き甲斐となるよう全力でサポートしております。

ご興味があるそこのあなた…一度見学に来てみませんか?きっとこの環境が気に入るはずです。首を長————くしてお待ちしております。



## 編集後記

皆様方に支えられ、機関紙も、早いもので36年目を迎えることが出来ました。多くの方々のご協力のもと、無事に発行することが出来ました。原稿をお寄せ頂いた方々に厚くお礼申し上げます。

機関紙を読んで頂いた皆さまに、施設での取り組みや地域の一員としての活動を今まで以上にご理解いただけたらと思います。

本年は、新型コロナウイルスのリスクレベルも引き下げられ、活動拠点を少しずつ前の状態へと戻していきたいと考えております。

今後も地域に根ざした施設として、施設利用者の皆さんとともに一歩ずつ確実に歩いていけたらと思いますのでこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

編集委員

西村 好伸

角田 圭介

木原 佳美